

## 「医療と刑事責任」

理事長 島田 永和

### 同じ治療で同じ結果は得られない

21世紀になり、科学や技術の進歩はこれまでなら助かる望みがなかった病気や大きなケガでも治すことが可能となってきました。「奇跡の治療」などとメディアで紹介されると、同じ状態にある人やご家族にとっては、大きな福音となり、期待をかけるのは当然です。しかし、そうした最前線の治療も担当医から「うまくいくから、大丈夫、任せなさい」と100%の確率で成功を約束し、保証することはできません。

人間には一人として完全に同じ人は存在しません。身体の構造や免疫の反応など、ひとり一人違います。いくら条件を合わせても、同一の個体を準備し、治療の効果を比較することはできません。その前提に立てば、医学的には同じ問題を抱えた人に、同じ治療を行っても、全員に同じ効果が出るとは限らないことになります。身体などの条件が一緒ではないため、同じ治療で違う反応が引き起こされ、別の結果となることもあるのです。

医療者が、最先端の知識や技術を使い、良い結果を出すために精一杯の治療を行っても、人によって、期待した結果につながらないこともありうるわけです。治療によって期待した成果が出ない理由には、医療者が致命的なミスをした場合だけではないということです。したがって、期待した結果が出ない場合、常に「医療ミス」があったと決めつけるのは、正しくないこととなります。

### 覚悟と予測しない事態

がんや脳、心臓の病気の治療に比べて、整形外科では人の命に直結する診療を行うことはほとんどありません。しかし、逆に、予測しない事態が起こった時の驚きや落胆は、落差が大きい分、大きくなる気がします。それは治療を受ける側の「覚悟」の違いが関係しているからかもしれません。つまり、心臓や脳の手術を受けるとなると、命に関わると意識して相応の覚悟を持つのですが、骨折や腰の治療では、命に影響するはずはないという思い込みを持ってしまわないかということです。

整形外科の診療をしていて、地理的に遠いからとか、仕事が忙しくてと、次回の診療の予約やリハビリテーションの日程が合わず、結果的には担当医の進める治療を受けることができない場合があります。治療機関を選択する時に、自宅や職場から近く、通院に便利であるかどうかは、かなり重要な要素となることは理解できます。しかし、ガンや心筋梗塞、脳卒中という事態となれば、近い方というより信頼を置ける施設を選択するのではないのでしょうか？

人は困っている度合いと治療にかかる手間を秤にかけて、優先順位を選択するのでしょうか。その際、整形外科は順位としては低くなります。歩くことに多少不自由でも、生活は何とかなるし、まさか死ぬことはないと考えるからかもしれません。

### 医療現場は危険と隣り合わせ

東京の大学病院で薬が効かないばい菌である「多剤耐性アシネトバクター」による感染が発生して、新聞紙上を賑わせました。病院側が行った対応に落ち度があったかどうかの検証は大切ですが、その調査を「業務上過失致死罪」という刑事事件として警察が行う、つまり捜査の対象となるのはいかにも不釣り合いな気がします。

医療現場は危険に満ちています。外来や病室で小さなお子さんを見かけると、不安になります。ことに最先端の治療を行う重装備の急性期施設では、どのような細菌が存在しているか想像も付かないからです。そうした職場で働く医療スタッフは、自らの肉体を危険に晒しながら、業務を遂行しています。感染を含めた職場のリスクを十分に理解し、学習をした上で、適切な対応を心がけています。そして、そのルールは自分たちと患者さんの安全のため、厳重に守られねばなりません。

危険を伴う医療処置である手術では、さらに慎重で集中した対策が必要です。結果が良くなることを患者さんご自身はもちろんのこと、ご家族も、そして担当医や医療スタッフも心から願っています。しかし、不幸にして期待した効果が得られなかった事態に遭遇した場合、関係した全員が大きなショックを受けます。なぜ、期待したように進まなかったのか、徹底した原因究明が求められます。明らかな技術的なミスが原因となれば、相応の対処がいるでしょう。しかし、いくら検討しても、直接的な原因が人為的なものではないという場合も起こりえます。その時には、不幸な結果だけが取り残されたような結末になってしまいます。だからといって、無理に医療者に責任を押しつけ、関係者間の感情的なバランスを取るのには間違っていると私は思っています。

進歩した科学・技術の陰に、増大したリスクがあることを忘れてはなりません。そして、そのリスクは当事者である患者さんやご家族のみならず、医療関係者にも等分にのしかかっているのです。しかしながら、こうした事態に備えるにはスタッフの数は圧倒的に不足していますし、十分な対策費をひねり出す収益は確保できる制度にはなっていません。

次頁へ続く▶



## 刑事罰として裁く前に

個々の不幸な事例を刑事罰として裁く以外に、もっと大切なことがあるのではないかと、悲痛な叫びやうめき声が医療現場から漏れ出ているように私は感じています。私たちは決して逃げません。困っている方がおられて、助けを求めておられる。そして、私たちにその苦しみや悩みを少しでも和らげたり、解決に近づける手段があるとなれば、全力で立ち向かい、一緒に乗り越えるための行動をお約束します。しかし、それがいつも大勝利に終わるとは限らないことも事実なのです。それでもまた、立ち向かわねばなりません。少しでも光明があれば、動かねばならないと信じるからです。

私は、不幸な結果が起きた場合、医療者に刑事罰を与えることを前提に調査が進む風潮には納得できていません。裁判など司法の判断を仰ぐとなると、治療を受ける側と実施する側は必然的に敵味方とに分かれるからです。そうした図式が一端できあがったら、二度と同じ側に立つことはなく、常に対立関係となり、決して信頼関係は成立しません。仮に、司法から最終的な結論が示されたとしても、大きな傷痕が双方に残ります。不幸な結果を前にして、お互いが相手の立場を尊重し、理解しようと努める姿勢が傷痕を少しでも小さくする方策であると私は考えています。皆さんはどうお考えでしょうか？

## 診療管理部

### インフルエンザについて

今年もインフルエンザの予防接種の時期がやってきました。感染予防のため、また感染したときの症状を軽く抑えるために、予防接種を受けられることをおすすめします。

インフルエンザは、感染した人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、多くの人々がそれを吸い込むことによって流行していきます。インフルエンザは流行が始まると、短期間に小児から高齢者まで多くの人に感染するので、予防することが大切です。

#### インフルエンザの基本的な予防方法

- (1) 人混みを避け、「外出時のマスク」、「帰宅時のうがいと手洗い」を実行する。

- (2) 十分な栄養や休息をとる。  
 (3) 室内では加湿器などを使って加湿する。(インフルエンザウイルスの広がりには空気乾燥が関連しているため。)  
 (4) 流行前(およそ12月中旬頃)までに予防接種を受ける。

高齢者の方がインフルエンザにかかる、肺炎を併発したり死に至ることも少なくありません。今シーズンに使用されるワクチンは、季節性インフルエンザ(A/H3N2、B)と新型インフルエンザ(A/H1N1)の株が混合された3価ワクチンです。原則1回の接種で、当院でも実施する予定です。予防接種に関してお尋ねになりたいことがあれば、内科・植田にご相談ください。(文責:内科 植田秀樹)

## スポーツ障害予防セミナー〈肩編〉

皆様のご参加を、お待ちしております。

スポーツ障害の原因には、スポーツ動作における誤った体の使い方、練習前後のケア不足、疲労を無視した練習過多などがあります。今回は、肩をテーマに障害が起こるメカニズムから具体的な予防方法まで分かりやすく解説し、実技も交え、現場での指導に少しでも活用して頂けるよう実施致します。この機会に、ぜひ参加ください。

日 程／平成22年12月11日(土)  
 時 間／14:00～15:50(110分) 受付は13:00～  
 場 所／悠々亭6階 大会議室  
 教室内容／講義(30分)肩のスポーツ障害について  
 実技(60分)肩のストレッチ・トレーニング  
 ディスカッション(20分)  
 対 象 者／スポーツ選手・指導者、スポーツ障害に興味がある方  
 理学療法士・トレーナーを目指す方

費 用／一般 3,000円(税込み)  
 学生 2,000円(税込み)  
 講 師／理学療法士：島村 三月  
 トレーナー：大木 太加志  
 定 員／先着20名(完全予約制)  
 ※お申し込みが2名以下の場合は、中止させていただきます  
 持ち物／動きやすい服装と室内シューズ

#### お申し込み

- ①はびきのヴィゴラスに直接お申し込み ②電話またはFAXにてお申し込み

※お問合わせは島田病院地下1階 はびきのヴィゴラスまで TEL/FAX 072-953-1007  
 E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

# 歩行 ～障害予防のポイント～

## 正しい歩き方

『歩行』は、人間が日常生活上で最も用いる移動手段です。1日の平均歩数は、一般的に男性7500歩、女性6600歩程度です。個人差はありますが、日常生活でもこれだけ同じ動作を繰り返していることとなります。そのため、歩き方によっては体のどこかに負担が蓄積して、膝痛や腰痛などを引き起こすことがあります。

そこで、障害予防、さらにはリハビリやダイエットなどに効果的な『歩行』の注意点や動作の練習方法例などをご紹介します。

### ①体重をかける動作

〈間違った動き〉

両方とも踵に体重がのらず、お尻も  
お腹も力が入っていません

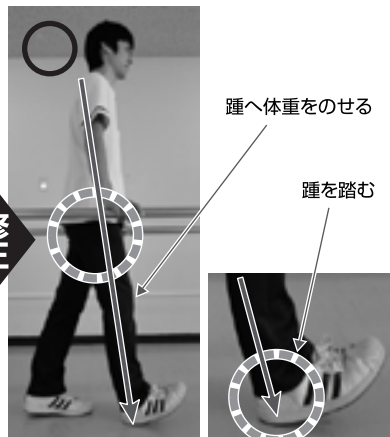


腰が引けて前の足  
へ体重がのらない

お腹を突き出すと  
重心が前へ偏る

〈正しい動き〉

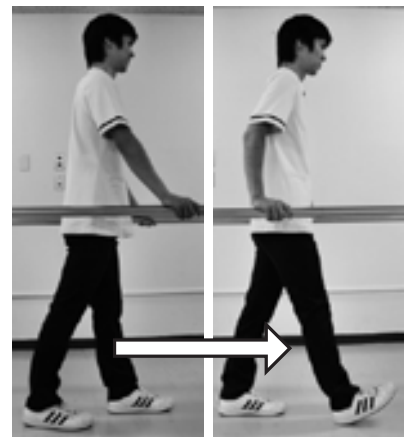
上手に体重がのれば、お尻と  
お腹に自然と力が入ります



踵に向かって腰をのせて  
その上にしっかりと体重をのせる

〈動作練習(例)〉

○繰り返し踵に体重をのせる  
○踏み出して体重をかける⇄戻すの繰り返し



※お腹とお尻がしまっているかを運動中に手を当ててチェックしてみてください。

### ②足を振り出す動作

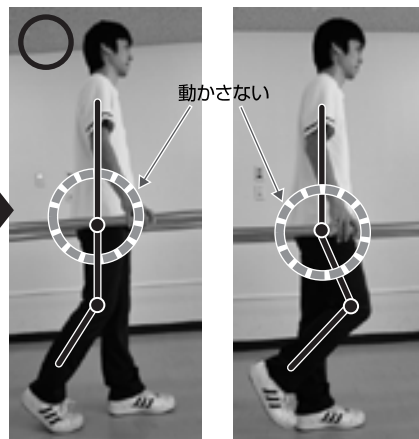
〈間違った動き〉

腰を引き上げることで  
足を振り出しています



〈正しい動き〉

振り出しは膝から前へ出します。正しい  
動作では自然にお腹がしまってきます

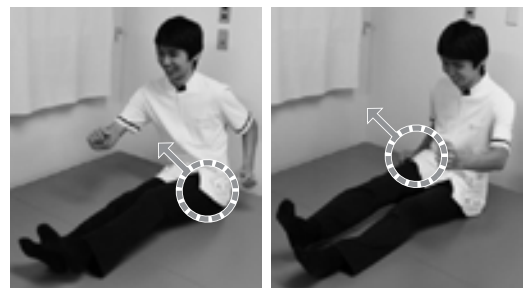


動かさない

〈動作練習(例)〉 お尻歩き(前進)

○骨盤を斜め前へ持ち上げて前進します

※お腹に力が入っていれば上手に動いています



※お腹がしまっているかを運動中に手を当ててチェックしてみてください。

普段から身体を上手に使う意識を持つことで、身体の偏りを減らし、障害予防にもつながります。また、島田病院地下1階の「はびきのヴィゴラス」にて、歩き方に関するアドバイスなども行っていますので、お気軽にご相談下さい。



### はあとふるグループ 使命

私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

### はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

### 島田病院 理念

人間愛と確かな技術に基づき信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します



## 続・サプリメントを正しく理解しましょう!

前々回の「サプリメントについての正しい理解と適切な対応について」の続編として、今回は、ハードなトレーニングをするスポーツ選手に、必要な栄養素とサプリメントの摂り方をご紹介します。

### BCAA

筋肉の材料となるタンパク質は20種類のアミノ酸で構成されています。これらのアミノ酸のなかでも「BCAA(分岐鎖アミノ酸)」と呼ばれるロイシン、バリン、イソロイシンを摂ると、**スタミナの維持、筋肉痛の予防**などの効果が期待できます。



魚や肉・大豆などといったBCAAを含むタンパク質食品を意識して日常の食事に取り入れましょう。さらに効率的にBCAAを摂りたい場合は、BCAA飲料やサプリメントをトレーニング時にこまめに摂ることも良いでしょう。

### カルシウム

**骨や歯を形成**する材料となるカルシウムは、日々生まれ変わる骨や歯のため、毎日の食事に欠かさないことが重要です。カルシウムを摂る量が不足すると、骨に蓄えられていたカルシウムが、血液中に溶け出し、これが度重なると骨が弱くなります。この他、カルシウムには、**ストレスを鎮め、精神を安定させる働き**もあります。



カルシウムを多く含む食品(牛乳、乳製品、小魚、干しエビ、海藻類、ゴマ、切り干し大根など)のなかでも、牛乳・乳製品がおすすめです。なぜなら、カルシウムが豊富であることはもちろん、カルシウムの吸収量を約3倍にするタンパク質を含んでいるためです。「牛乳が嫌い…」など、毎日の食事です不足しがちな方は、サプリメントを活用するのも良いでしょう。この場合、国が推奨している1日の摂取量、10代男性で700~1000mg、成人男性で650~800mg、10代女性で650~800mg、成人女性で650mgを参考にしましょう。

### ビタミンB群

ビタミンB1・B2・B6・B12・ナイアシン・葉酸・パントテン酸・ビオチンといったビタミンを総合して、**ビタミンB群**と呼びます。なかでもビタミンB1は、体内でエネルギーを作るために必要な栄養素で、**筋肉の疲労を防ぐ**など、**疲労回復**にも役立つとされています。



ビタミンB1は、豚肉、玄米、ぬか、全粒粉パンなどに多く含まれ、ニンニクと一緒に食べると吸収率があがるとも言われています。ビタミンB1は、サプリメントから摂っても、体に必要な量以外は尿などから排泄されるため、副作用や過剰症の心配ないとされていますが、国が推奨している1日の摂取量、10才以上の男性で、1.2~1.5mg、10才以上の女性で、1~1.2mgを目安にしましょう。サプリメントを活用する場合は、ビタミンB1単一ではなくビタミンB群を総合的に摂れるものを選ぶと、相互作用が働きより効果的です。また、1日分を2回に分けて摂ると吸収率がよいともされています。一方砂糖を多く使ったジュースや菓子などは、体内でビタミンB1を多く消費させてしまうので、これらの摂りすぎには注意しましょう。

サプリメントは食事で不足している栄養素を補充するためのものです。  
食事を基本に考え、しっかりと摂ることを心がけてください。

